

「ごみと資源の総量」の実績について

平成30年度10月末時点の「ごみと資源の総量」の実績（速報値）を報告します。

1 10月末時点の実績（速報値）

家庭系と事業系を合わせた「ごみと資源の総量」は、約71万1千トンで、29年度の同時期に比べ約1万1千トン（1.5%）の削減となりました。

(1) 家庭系

「ごみと資源の総量」は、約49万7千トンで、29年度の同時期に比べ、約1万1千トン（2.1%）の削減となっています。

内訳として、ごみ量は約9千2百トン（2.6%）の削減、資源化量は、約1千7百トン（1.1%）の削減となっています。

(2) 事業系

「ごみと資源の総量」は、約21万4千トンで、29年度の同時期に比べ、173トン（0.1%）の削減となっています。

内訳として、ごみ量は約3千2百トン（1.7%）の削減、資源化量は、約3千トン（10.5%）の増加となっています。

表 平成30年4月～10月のごみと資源の総量（速報値）

	ごみと資源の総量【単位：トン】						
		家庭系			事業系		
			ごみ量	資源化量 ^{※1}	ごみ量	資源化量 ^{※2}	
30年度	710,921	497,255	341,298	155,957	213,666	181,521	32,145
29年度差	▲ 11,028 (▲1.5%)	▲ 10,855 (▲2.1%)	▲ 9,167 (▲2.6%)	▲ 1,689 (▲1.1%)	▲ 173 (▲0.1%)	▲ 3,215 (▲1.7%)	3,042 (10.5%)
21年度差	▲ 54,656 (▲7.1%)	▲ 61,932 (▲11.1%)	▲ 28,756 (▲7.8%)	▲ 33,176 (▲17.5%)	7,276 (3.5%)	▲ 11,130 (▲5.8%)	18,407 (134.0%)

※1 家庭系の資源化量は、行政が回収した資源化量と資源集団回収量の合計です。

資源集団回収量は、集計に期間を要するため、報告月の直近2か月は推計値を使用しています。

※2 事業系の資源化量は、学校給食残さの資源化量と事業者が生ごみやせん定枝を資源化した量の合計です。

※ () 内数値は、30年度の29年度と21年度との比を示しています。

※ 表中の数値は整数表示をしているため、算出した結果が一致しない場合があります。